歳旦牒

芭蕉門人

元禄十一戊寅之年

歳旦　風國

蓬莱にかさぬ露色は小松哉

たりとひろそけふ万葉　爲有

世の中ハ見てころあまきあし

このそし　去来

其二

雲雪や去年ハ此津たかあたら山　野明

薮乃か等や世嵯峨の初春　風國

鶯をと届らしと念

一の筆て　野童

其三

爲有

皺顔して翁ハひるや桜乃花

歪部のかるさま正月なる　野明

東風吹ハ猛しなるこのつまさきて　風国

落柿舎案内　去来

元旦　生つのう　寄る顔花

初日影　虎生れ　き　光の好　野童

梅ゝ　ふ者すてう　春けめ　可南

冬籠

年もとや　牛は尾程の便り　去来

ひ年を　南追　剪る雪　吹の好　野明

責買　なりて　あ　雨　有

ひ年を　鼠　鼠市　人　風国

戊寅　嵐雪引附一数月

元日

面ゝの蜂紙　拂ふや　花の春　嵐雪

世乃分　ゆる　沢　百里

長閑　行　氷花

冨士ひや　下小　正月　氷花

沖小　食　床小　江乃　嵐雪

落の葉乃　紙　百里

元日海人休めてみの種　百里

まゝ（船）揚る一方艘の薦乃ホ氷苑

市橋端（ジ）くゝ海くも梅咲て嵐哉

カラヤ庵を東板り

元禄戊寅

節分序　芦角

閑（キ）黄を

ゆのゝ

うゝ

ゆる

初日かな

旧久々

白とんぼ小払さそ〳〵
多の雲

毒虫を殺さまあひて
こゝ老乃此咏を
持ぬきこゝ結わハ
大ぶんをつかし

ぬ

元禄十一戊寅

山茶屋　直木導

菫菜や七尾七谷七ゑひき

柳の風よ梅さくなるを　李由

辣韮の小暗きよめるを　許六

歳暮吟　杉汶郎

大雪や傘の傘味噌畳

るよ刑部殿家の出雲　徐寅

百姓藁代脇しよ借来　程芭

せんを祝てくる月を見る也　沙芦

面桜なまくひの枝の朱油

脱とわてよわ蚊乃をしさ　毛紙

令和四乙百年ゆ小寿　如元

脇塚口はそしく見ちを　故布

はるる伊勢乃火強のかく之帯　米窟

鮫より奥ゆ肌なのゑ也　許六

出家を衣の棚よ猫ゑて　李由

吟よさるよ糞元乃徒　木導

榴就よ味乃八ッ子出て　寅

茄子ハまふく昼よ蚤の　邨

人体傷るも乃蕎麦の姿の風　芦

十一月ゆ月のゆてゑれ　己

梅若の神と紙乃表書　紀

新乃新聖乃長宗乃　紬

井清左衛門板

芭蕉門

成員

青旦

蓬萊の蓬の青き物　桃都

二日は寒いうち鶯　宇月

花氣とおもふ味ひて　金峯

其二

調子合ひ初丸丸了　登八時同

大服は考仙洲　黄昏ふ　桃都

一茶　神掛り　右り紬掛て　宇月

其三

菊菊は沙汰なしあるとの去同

胡蝶神形よりて　作金峯

三月の紙ながの勝の　桃都

試筆　面八句

登城曙

貴より吹始めて代の去桃司
[illegible]の海苔の一万年小勝　犹都
海[illegible]山を棄架と新せて　桃葉
[illegible]ようにいが人多物　李里
庚人[illegible]　[illegible]帰　胡松
[illegible]一頃[illegible]菊も[illegible]　橋々
半月や[illegible]　[illegible]　冬菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]

京寺町
井筒屋庄兵衛板

元日

仁誠無嫌友　神叔

待
價待[illegible]　[illegible]君の春

[illegible]　[illegible]　[illegible]　至町

うす雲[illegible]　[illegible]　[illegible]　仙化

明誠無聲友　村夫

嶋
海を時初日の海[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　仙化

蓬莱代[illegible]　月下

子誠無別友　至町

我涙さこりうり梅も餞りけめ乃伐ぬ月ふ面　神叔

髪の髪風乃うりの扉絵へ　村矢

福誠無屈友　仙化

弓小庭へ海ぬ庭さんの春

鶏伐斬きけくし乾　月下

一代乃庭の梅も化粧して　至町

徳誠無斜友　月下

年立や千乃世ふ和ふきまうう

鳩乃けうう中ふ面ろうあくう　村矢

此のあ乃のあ乃ぬ斜て　神叔

中ふ乃ふ和ふ乃ふ

歳の夜や三の蔦原の東乃雨　神叔

流年の目乃乃ふ天川　月下

白丁乃中ふ和ふ乃ふ大海日　仙化

春伐衍原乃の梅や四ふつ　村矢

梅持ふ乃庭伐ふ乃ふ乃ふ　至町

元旦

[illegible] 杉風

[illegible] 年[illegible] 獨子

[illegible] 八桑

門松や裏の住切る[illegible]際繕ふ 山店

初春や[illegible]眠[illegible]門[illegible]茶 嵐竹

[illegible]小出し[illegible]待ふ[illegible]の夢 曽良

拂ふ[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 虚桂

[illegible]の中[illegible]の[illegible]の初[illegible] 三蓬

[illegible]雅[illegible]耳[illegible]の[illegible] 涼葉

[illegible]　元緒

老人の名をとゝるる海苔　燕下

漏刻を鶏のなかめて明の去　利合

知ぬ名や俳諧さむ袋の札　桐葉（禮）

汲初やぬるさ無尽井戸の連　支梁

正月は松や竹ゆて作る野也

松一本植く庵のかゝりに依々

ふつゝまや蓮の松のかゝり子　珊

一間庵に家より起り茶碗　泥芹

家造り松結して狂ひより　石菊

弓半程余所の門ゝ宿の去　序志

大根や料理の花は弟ふくに太大

今年又是ふかるむやゝ統汲山友久　友五

海老の鉄大事にとゝ境俳子祐

今朝乃花掛に打迎教村子　湖志

去年といへるまゝやゝ洗目に　湖松

立春ふこ新い又人の意し　楚舟

正月は内ゝ紙井初ゝ乳　杏村

皆人の言葉新ふし[illegible]の去　石人

ゆゝみゝる情掛声[illegible]の去　桃川

目出さ寸紙榜ふ名結ふや盛行　盛水
飾

鶏頭

人先ん丑行ふちうそや年内く野坡

元日

大延ゑ越ぬる年や同し　加舟　舟流水
年毛ふる君く毛ちやうそや野の雪　日　廬程

歳暮

我幼ひ師走や裾の待ち侍　子珊
志ろ〳〵く庵ふい乃ふ紙　楚舟
反橋の板かろく吹さえく　太大

うんかを毛ち服部　大晦日　全
ふに報ある小足袋の紙　子珊
冬至ろ〳〵る博の梅ぬ咲　楚舟

大年や侍ち市の人　全
仏乃京ろ祝る年屋　太大
物の遠ち月京ち海　紅子珊

歳末

神食見物ち年の市曽良

[illegible]日かゝ[illegible]ゆゑ[illegible]や年ぬ[illegible] 依々
[illegible]心あてに大かたる[illegible]配り餅 石菊
[illegible]の日い年[illegible]いたる[illegible]立[illegible]り 杉風
[illegible]汁桶や[illegible]沢清[illegible]るそ[illegible]の[illegible]逢水
[illegible]日よりの[illegible]き庚[illegible]煤掃 野也
四日かゝ[illegible]古根[illegible]らん 法蒜(ダイユ)八桑
一枝さを[illegible]こ酒[illegible]ゆ[illegible]れ 支梁
角なして人の(やう)[illegible]く年の[illegible]桐矣
小[illegible]子[illegible]梢一[illegible]疲て[illegible]乃[illegible]利合
大年や一里の道を一[illegible]り 徊志

師走[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]く 栖袋 序志
去年[illegible]尺[illegible]ぬ[illegible]る煤掃 子祐
[illegible]文[illegible]花の[illegible]を師走ふ 木友
[illegible]猫[illegible]梅乃師走ふ 之風
[illegible]さや湯[illegible]る[illegible]の大晦日 石人
[illegible]ゆ[illegible]目と年[illegible] 桃川
[illegible]紙[illegible]年の 泥芹
[illegible]れ

返加

掛[illegible]の中宿も[illegible]あり年[illegible]野坡

序引く

手行や根越の芭蕉をかこひ　唐

芭蕉像并之引付

元禄十一寅年
京侍町筒屋庄兵衛

元禄十寅　横所　楽葉堂　游刀

青帝

万年の民蓬ヶ島に
春乃童り此翁不秘文　昌房

野辺山も為州より成主鶴迄　探志

蒼天

鉢形やとの鶯乃幽を元
勢ゝく海れ町の水あび　游刀

雪代清を為此を
ゆめん　昌房

東君

三方此海老の赤ゝや初日影　昌房

ゆづり葉を摺て肩衣の廉　探志

湯殿上使乃供侍さゝく　游刀

詔光　筑雪

山家に時雨降る初月哉
牛飼とうよりはるぐ抜て　松滴
庵の無窮小猫を愛ぬん　羽年

鶴日

大猫や花を待氣に寄りう
寒よ寒もう消て雪降　筑雪
船乃ゆ河骨地ゆ移る雪　松滴

没且

名遠の秋波椅四風　栗[illegible]
こゞれて　筑を[illegible]ゆ稲妻　羽年
凝解に石の傷さまあらて　筑雪

初陽　四虎

蓬葉に行雲岩高の中
稲乃うらげを羽ゝ若草　汀芦
稿抗よりもとゝ小鮒漁と柳に　畔路

上陽　畔路

蘭梁徳出論ゝなる見やおこが牛
陣に移る乃　二月をする　四虎
ぜろ〳〵と里へ雲の都出く　汀芦

大旅　汀芦

雲鶴や松を摺合矢倉丹
情熱ゝ秋に狂ゝ嘗　畔路
都鳥報ゝ国乃情ゝ　四虎

桃符換来 賜二市ノ店ヲ一 緑智堂 野徑

初霜や おまきの下と 紙漢

七種摘の 掛ふ高山 正秀

檜物よ 見よ 扇も 柴 北玄

上日

賀茂 北玄

来初や 墨摺る 鞠の上

春より 雪色 鳥帽子 付 野徑

養ら 健者 ゑ 西の旅 西秀

晨前

青節堂 正秀

「雲に 志りも 甘 の月和尚

雪 飛 丸 ふく 芸 北玄

加 多 乃 種 の 掛 ふ 紙 陽 野徑

引指

元旦

清 と 金 乃 籠 松 傍 吹第亭 胡散

大小を 嫁 よ 四 色 よ 花の 玉 春 朝月

よ あ し 寸 寸 に あ 日 丸 物 支幽

寸 汁 の 祝 く し さ ら 元 方 松 近 白

切 と 四 丸

数 多 い 曲 業 に 嫁 初 日 の 丸 朴吹

医者

遠 来 や 寸 よ 西 て 篠 物 楚江

雲 物 や 山 乃 ら 屋 の 海 の 屋 雨門

礼まうやまつて開て三ケ日　麻三
椎の四て摩ふ拝むや初日記　金今
万歳のそばへ付る注連の数　廿年 平 粋龍
春の大気に咲花哉　杏雨
倫や子役て祝梅　芽行

大小の吟

かすり大二五あれ八九霜十二月　宮 成岡
蓬莱に若葉結ふ始　宗武
練若氷屋にのこりけり　光枝
梅そらや咲ておとる日の初　自来
名物乃魁のひきの尻　す 鞠 新絵
恒例や提く蓬の肩　南呈 元伸
それく初日に　大道 柳雨

庭竈餅あふれとや山祈歳　神保 自行
花の日や万代おわし長生門　米田 政春
仲町や舟の錦代門かざり　松井 船光
ミかづきう風　宝亜
御之也我進らむやち　方 向 久勝
神妙年寿れ　江戸 女
蓬莱やさ掛のき　女 紫

海山端れとも
あふひ

春の色をあゐづきとみせて　えん
歌門ま来映　女 縫羽
一面 信濃の海
瑚莉や秋大和乃門の前　傍 文仲

逢境

清水子

節分や鬼をあざむく男玉

嵐尾之峰

年もくれ　牛の尾程なる雪降去来　京

近江さい見舞ふ雪の夜　酒堂

りきとて行過ぎる雪の気　野朝　さが

雪ふるあつくあつく師走哉　日乃有

行年や弾ちらす市の人　風国　京

長谷や　煙草の煙ら住　安女　さら

年流れや一宝なのめ　海夜の梅　東安　大坂

年内の夜長

朱泥ぬちる弱る夢の宮　酒堂

いとしくもし迎師走の車　探志

棒鱈乃股ぬれ行く雪の市　蓬莱

雪の市宮も詣るのご迎り　江戸

文賀行ふ雪を君のいさりとる法貴殿は　庭はき

野ざらし辞や夜の師走　野涯

人ハかり　年ハ

衣配人　角ゑ　ゑ　尾光　女　鶯

日々放下拳論　闇坊長ス　音

縁帰を去て　男子　あ　風　埃　載　澄刀　身

鶏旦ハ師走の果に狙せ
ありくと屋根を
鴉(カラス)を射ゐ残して 夭
あさゆまよ 柱ふ

師走 走
足ませて程かや寒鶏 正秀

戊寅

元日 膳所

献立や松の内より鯛はしまり 濤川

お箪笥(タンス)町ハ殿でまめ里 卧宮

自慢なる雛まつりして 里東
慈量抄

仝

京宮は小満まりや 吹の春

仝

幾月代(サカヤキ)のつかむ川うしハ 濤川

蒲綿て花期ししろきや 卧高

仝

はつおりは四五夢よかへ庚申

仝

正月の気して何をささしぬ 里东

振出し奇特な見ゆる横咲て 濤川

試毫

新しき心ばせとも老の春　淡水子

雑旦

ゆて今数門なる竹の青さの風　酒堂
家普請をしるるつすとつくさり　胡故
三ヶ日過てくら宿て蕎麦打タン　落荷
万歳や古て見らしけ云ト　汀鴉
一むきの小松長ケのあり弓　飛メ　喬校
あれさらん柏子やくら万歳示　暁白
初しぐ歳ぐりあを都さり　白羽
ま葉や花ゆるる昔むろ　君山
朋のくもてこれすれ物日の邪　稲道
おつけを素の柏子の法号の邪　川支

蓬葉を出くれるそり蛾の庇　麿崖
あるひ法砕屑萩や十代の春　軒心
蓬莱を後くしかにし小給　船曽
上下て梅見よゆん屠蘇桜婦　民仁

くしのくれよ
煤の湯を流しうけ　香の上　里東
掛乞や星いくいて小関越　暁白
鯛ハくけくれて
うさ和さんあをハ　鯛師
ハつくもしあて

待ゆるの市重要
賣あまた無の目せりてよりて
太神宮へまいりて
ちかへるきよ
神をうゑ雪ノ巻ノ戸の道造り　潘川

戊寅歳旦

歌四隣　　泥足

小山も青ノ人出の花や元の春
笻　名月やけるまくと和ル　泥齋
臨月弓六張さしたるまくく　丹野

仝　　仝

西東まん開ぶ春ノ朝ぶ
ちくもさんの四季成受る和ノ　泥足
一本と和ゝぬるふて霞ノ　泥齋

仝　　仝

若
窮木ノ書ノ星みさんの
髮　ゆるる玄年の猫ノ　丹野
梅柳　足徒達の持ちく　泥足

鶏旦

一灰頭土面ハ常にして殊建文、
田家のをちこちに謹しみて　四歳

としわすれや鍬大将の門の松　犬吠

若水年の内裏見てしらず(?)　游刀

万歳や袋所なき我かし足もち　可候

古歳

煤さへや裳へいつまで梅の花　鯢秋

蕗のおき師走の今日よなかめ川　柏笑　暁居

年忘れ万年までにひ合せ　正見

ひとの目ばかりおさまりてくれるや　としの市　文草

挑灯でも紙よむそこの宿　泥足

風張の屏風よむすぶ師走之代　丹塊

歳旦

つれ所ちさえ井露乃日和かな　二秀

元禄十一戊寅稔

如斯、去年は聖師のおひをいまだ松と母とりして、こゝろよきあまり九年さらにもゆく行年の侍らんをしらぬ

正月し

除昏　吐龍

化ものやそのくけぬや尼掃

老陰

湖母すりそのゞなでゝ廻の蓑る　仝

生天仏邯濵　燕吾

頓瓢仁踏雪　仝

載陽　木志

伏保姫と兄紙を重ぬ熙陽星

風雙調は肥ありて伊しく　秀

百千ぐさ赤飛蛇と轉るも蔦谷

其二　仝

ふるさとの梅はおりしも辛螺肴

被官ぐるまに男ぞ蔵

鎌入ぬ渾草山ぞ洞ある　秀

其三　仝

元日胡桃ぞあるる鼻油

年ぞ来に九月毎ぞ行く　木志

花の姿面八着ぞ咲く竈

祀膽　木志

草蘚ぞ高の粥用や

水船も法華　しの市

雑煮や　乃著　正秀

試類　夕陽觀

飾弁枯る義が管絃をつゝみ　角上

東風ほろ〳〵と落る松笠蕾

雨と乞隅よ宗虹の立初く　兒

望堂

第二

織姫出立寿面四方拝

雪花を半紙を削青柳　角上

食き乃普請と春を醫者芸者蕾

第三　晴嵐

法慶弐愚よ見ゆる人乃影

嵩ほのゝ〳〵庭ほろ〳〵　兒

京の水肥面越ゆる雁　角上

腊晩

大名も春よ呆れ乃

火とも毎寸　角上

四ッ　梅　扱さる多

咲る　兒

師走哉

祝辰

萬歳や紅葉ちるかゝる高田川　學龍

震ふる洞よりうなる長子蛸　龍

燕乃ゑ蒔うちもの羽及　龍

其二　仝

元日ハ戸ゑぬぎうる恵比須

ゑ兄寶引のさゝを三尺　學龍

宮治の春かのゝあ番茶杜鵑　龍

其三　仝

黛よ梅散ちるゝ七日の雨

競香よ京名ゑ蕾　龍

陽ゑに鈿螺輔と皆明ゝ　龍

田辰

僂女よ鼠波ゑ忘　龍

戲女や指毋十ある

ゝ乃ゝ　ゝ

魁祝

若水や家老に汲ん旅乃宿　江戸大清

白袞よく似さ国乃万葉仝　縣

春寒し京のみし裏ゑて仝

鐘暁　加陽金春在

花咲て見る毋まの秋采車　京子

壺真弓あびさせやと乾の春　齋

いきいきや父母をてはる花乃素子列

初夏ふむ京やいまの京百て

千代乃色乃の朝も虎の皮　忠

おり　あつて雀よろこ初日弐　綿江

初雞や内侍不ねうすく音　徑校

左箸ハ子とさう乃ハ子少鳴一寫

宝引や声のうひが里れ東竪

初空やこうひ鐘唯も田乃外　棟義

初示風や子歳の縁の袴の如く　楚江

多ものあさひうのて扇子箱　今井有一

ひとと左箸かうき乾の花　當　驅

鳩双市門まうし初日新　龍

唐土やとし嘯く門乃松　羽

ゆきり松ハつさもや忘衣初　女石

伯父ひとふひさなよ高初　文六

鰊魚子き須の真砂の雪の川　冨

五

雛声や画かける棚よきかたを　猜真嵩

曙や物あたらしの水苔　洞学

枕や志賀の郡のあさぐ神の恋

紅裏や薬とのみて若衣物　是乇

末広や親のみかけよりこ餅　江戸 安藤

物音や梅を見つかる猫山　吾春

二親の白あるてやかこともちの　象水

元日

大服や我ながらすみれもした光　ゝの里　玉堂

息らん咲　一輪乃梅　嘯庵

呆著　玄甫

青鶴あるよきに若鳥綾の音

番朶うりと一文に鴨の羽音八智月

比叡まで宕ますやとんとよきの百之　緑

うきつひさより飛出てよきの著堅之

節分やおにを浮切の子海西路

節分やおにを画のこの大豆の音差続

刀より称よな飛ぶるほれ出さ小佗　佐倉民

三宝の焼火向の師走の呼樵織

干鮭よわりしつ年乃師走し式象水

いしの来や猫よ大備よ年の音正春

鮑木綿かんてあよしやよの書　書　正次

歳尾

乃ひ抑りかきえんと云ふと なれ
路乃さひしさ 悟り侍るか

人形(デク)店乃中に箇并(ツヅウ)が 別
としわすれ

徳不孤師走 薗宮

あかめや栢(カヤ)々やさけぶ竪(タツ)横(ヨコ) 杏志

衣賊(キヌクバイ)了幸丸に蘭(ラン)の楽(カチ) 嚵庵

ぬるみに巴会よ牧

寅のとし

元旦

ねらひしあつまる
ゆかしきとそのを
おもむたちぬまでと
さそひてやみぬ 百々子舎羅

よ勢てかん猿のころもと初荒

わか守らく蟷螂の滝之柏

蜂の巣に此ころまでも漏りつ 諷竹

歳尾

あるもの年の始めの香除 舎羅

炭乃まほひのかける 猿 諷竹

たらるもまたいかのむれて 天垂

元旦

小神のそなへの高きる新の天空
み城へて世俗の新の夢日の初三尼
ちとせや神のたかりし一歴史の水玉
新妙し仏階形ちえ方 栩調竹
ゆるるの年ちとせてめ千あさつ

歳末

行年や木末ふれる宮の庭芝柏
人形と世ふつくりて師走の天空
世界の年もつるすし年の元調竹

京寺町
井筒屋庄兵衛

戊寅歳旦

柳後苑連衆

豫章堂　吾仲

元日

吉岡さ名もゆくさ名ゆ始
皆春ゆあらたまの年の初　范字

里〳〵に赤橋の太鼓打ちて　子直

達観帝　呂物

其弐

石川の池さらさらや大餅
落ち名付くる時玉祭　吾仲

出雲乃お蕪づかづかと　范字

崔九堂　蒙塾

其弐

正月小川流るる柳かな
おぐらいさるゆうふる追　子直

賜り蒲団影やせるる肥て　吾仲

試筆

元日伐嘶ゆ百千鳥　范字　頤支順序

様御乃膳のまゆ初日新　子直　只且園

四時探題　五句

かるハ棚あぐてや多良　子直
八月や煙さく墳の大蕪　吾仲　二六
餅突や覗き込ぬる手つき　呂物
節季作も糟小酔る勢ル　范字
ゆ乃頬と白ゆ　蒙塾

歳之

多賀の宮の笹やおほ雪　素竜
屠蘇や鶏取分ても国乃春　陶後
発句乃ふ多ゝ海嵐もゝさの春　楚雷
初鳥や哭さ川岸の柳ちり　子晴
大つゝや松と行とのむう冷　魏岌
紅梅園も乃ぬゝ乃初るふ女　菓林
寿松りゝ人ゝ乃ゝ乃ゝ飾るる　逸粋

京城迎春　肥後代

人並に詩を廻す酒呂代　賈廬

年の人神　月次會

国富乃時ゝ乃ゝ乃ゝ　庵主
竹高乃奉行茂乃塀度ゝ　青仲
井筒乃兵衛板

寅の年

元日

乾坤一俳諧ゝ乃ゝ乃ゝ桐
もゝ乃ゝいるゝ乃ゝ乃ゝ編
歳之道　諷竹
歳之の畠ゝ麻を蒔て

元日

宮の水みのゝぞや乾坤　保道
若水や杓も茶筅もたろ　莊人
ゝゝや年のちゝて物ゝ雪の色　東故
元日やゝ正ゝゝ木ゝ乃枝　美雀
門雲の木末ゝ乃ゝ出ん初風　附子
角のつゝ乃ゝけき紅ゝ　焦桐
大姉ゝや右ゝかゝへる硯箱　伽香
ゝ皆てゝん旅のゝ乃ゝ初風　金雄

元録

元録元年 起もしいぬも年 初 因之
見もとるよい年 初春 羽竹
ゆるる雪もあそたを 新り松 其角
ほり言ひあるゆ年の年とと影の松 能報
てくどとそ笑を 金すや福寿 夕涼
らいかみる梅が枝のとと新の色 武在

見川の山家の松くもるる新 永度
梅は老てとそ年も同し花の春 菊花
初春とこやら梅ともほひ之 嵐白
道葉ふるよりかしこ乃くくを 伴好

酒屋の梅とさいてこそ年の末 東吟
元旦や鶴をつくやら春の元 芙蓉
この年祝宴の当所おとり年の元 能秋
ひとしるとこやら春の門 保道
世尺の春も乃とも乃年のの元 風竹

井角や春とく板

元禄拾一歳

試竹門人

第且

凡薫子 芙蓉

何ほも咲こるらも今新乃初彩
そして苦乃なん夢 竹 新 武在
如月の風とろろ自ふまて 嵐白

仝

嵐白

戸障子ふるまとハとの乃
ぬ[illegible]ぬ猫なん耳がそゝ立 芙蓉
永き日小商ひとのろ[illegible]ろ 武在

仝

武在

一夜ゆくいい川も望往をけさの
普請の少も仕ふ青 梅 嵐白
有繋砧摩も 元日盃代を 芙蓉

元日

[illegible]ハ諧謔[illegible]ハ元方 栩訊竹

元のトキハ[illegible]ハ門乃春出田

おすゑ圖へ持くまいけ元方松里角

[illegible]乃春ハ[illegible]ぞ[illegible]ハ[illegible]ハ旅貞

末い老[illegible]も同一花の春 莉花

足[illegible]の山家の[illegible]の花 永友

日出さや春[illegible]と日の光 萬立

万代や下[illegible]ハ[illegible]すり 鯛 塩凡

初春や桜のめがい[illegible]ハ立ん 女

つき合乃皆顔若[illegible]ハ[illegible]ハ 萍浪

[illegible]乃ん旅のんを初[illegible]て 舎羅

[illegible]

夜[illegible]ハ[illegible]ハ名[illegible]ハ[illegible]ハ

おゑ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ 武笠

行年や声[illegible]ハ扇[illegible] 萬立

恍面を[illegible]ハ[illegible]ハ 塩凡

塩鯛[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ 光白

此冬い思[illegible]ハ[illegible]ハ 永友

[illegible]道のあ[illegible]ハ[illegible]ハ 竹訊竹

[illegible]つ[illegible]て長閑[illegible]ハ[illegible]ハ 美雀

芙蓉亭すく
ちもと稽の
吟

欽仙

燭寸

訓竹

ちり雪も降や冬梅冬椿
鶴とも乃ゝ雪ゝ片　隅芙蓉
代り元御借羽織と寒椿く舎羅
さゝ有さゝか斷しくゝ武在
うゝきへて月ゝ庵の隅ゝ尚白
ぞんぞくと秋ゝ暮ゝ紅筆

物なつかしゆゝ菓子おけ原ゝ雀
袴元ぬゞ年ゝ月ゝ竹
紙文庫ちゝ乳ゝ五五
きゝ山ゝ山ぞこゝ一ゝてこく屋
四五重乃具ゝ小銭と買ほし竹
元服まへゝ珍奇物こと白
唐月に霞を消を吹ゝく屋
去年の疾乃跡とゝむく雀
長ゝ壁に持ゝ椿の咲しゝ白
東風吹友ゝ志ゝる板茂五
口くゝ花乃盗と待ゝぬ不雀

くるくると往く牧の陽又ハ竹
名ヲ
生こぢむ穀のろろ人の声も
枝ヲ
枝ヲ一ろ見るくらゝどうゝゝ鳥
岡杉乃物そて佛一寺一氣白
後の彼岸ヨ 稚乃 御米雀
青くヨ陽ヲ陽ヲ花月の舟移ひ竹
うそよろ水ヲ紀 良て呑喰も
八九杉峠の家もそのまに鳥
芋五ヲれい伯父ヤ御白
迴状ホつろヲと点いかろる雀
うけとりわくゝゝまちんさく竹

見ることなく乃ヲて娘と言ふ也
ちゝくゝ文ちん使り寺ろ鳥
名ヲ
ホこの梨乃敷い泊ろ帰集白
皆くゝ丹の時ハ明ける雀
塩糀 今度乃味噌ハよいげん竹
のこぎろ 彼くゝ花生と切も
凍解ろ草羅ヲ込塀の佐鳥
ムくりかゝろうちゝ雨白

[illegible]

[illegible]の山[illegible]乃白め　水甫

[illegible]　[illegible]

其二

[illegible]　咲　乙由

[illegible]の初[illegible]貧楽　[illegible]

[illegible]　[illegible]

其三

[illegible]　水甫

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

其八四　　文朱

[illegible]羅人
[illegible]源川の橋　乙由
元禄七丁丑年[illegible]　仄止

其七　　南花

餅好れ[illegible]師走

[illegible]　文考

門[illegible]　[illegible]

其六　　仄止

[illegible]

[illegible]　文朱

[illegible]　[illegible]

其七　　呂更

[illegible]師走

[illegible]　文考

[illegible]

侍[illegible]　[illegible]　園友

其八　　呂更

[illegible]

[illegible]　柳玉

[illegible]　柳子

[illegible]　武男

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　呂浩

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　賀夜

歳暮

[illegible] 露川

かしらの雪をはこぶ蟻の下 素欽

ろうあかれ任運と見るれば 東推

仝 仝

月を突りわるう俗をはなれ雅

ねはれぬえんらの際の雲雨 露川

糠星も鮫るなり浪の音 素欽

仝 仝

雪庭の梶葉や茅のうれ

二番のあれ月園ふ拍子 東推

しけ岡み皆積れるあり路 露川

ねつかや夜長の夜

成才記録 芭友

はいとも尺文まさ山を

もつてひらいて芋の口 芦本

咲ふ[illegible]の[illegible]

二

長屋をいかに伝えり 芦本

島此井戸のうやうあり 空牙

やそ切なるあつまも 萬里

三

やうしゃ[illegible]あるの[illegible] 圭斯

二人様婦[illegible]

大 鍬よひらまり[illegible]を耕て 芦本

四

かき切り風も稲葉の面かな　萬里

星々餅をすゝ宮詣ち出る　雲友

雪ふるみちむかひして　圭斯

五　　定分

雪ふる花月もふるとしの夜　孔の巷

柳ゆり雨の降ぬ池　圭斯

田の畦昼よりなく鳴て　雲友

月五

きのふとなるとしの夜　昌度

月

何いまもこれあるものゝ　武岡

三物　　起芳

先ひとつまるものみちの　翁子

香り志いらるゝところの壺　寸陰

雑の春みんなを思ひて　自歌

仝　　月

尺て春ふる雨の編笠

二月九日初て春の夜　起芳

陸奥安ゝ久しう兵衛を　寸陰

ぬくなりて　月

仝

只居て柳ゆるむる相分

ひろきを餅よ梅みを　白歌

廿篇雪ふるとをひとをりて　起芳

日始　　了廉

今朝の月は冴てぬるぬるぬるぬる
待ぶなるら梅ゝ香る宵素甫
ゆるゆるまぬ水仕なるもの　掃おおて　逸草

又　　仝

月は丸ゝ鏡ゝむふ新の者
常盤る帯を添て孔雀ゝ了廉
朋輩よ茶の湯ゝ吹ゝ素甫

又　　仝

まゝ屋ゝ伝ゝ　日の下ゝ光
そのふれ言ゝ　ゆるゆる風ゝ　逸草
ゆるゆるゝ　声あげてゝ　了廉

三拍　　万吟

世界ゝ　梅の花
新人ゝ　ゆるゝ
相景ゝ　春ゝ　一止

仝

有のゆきゝ　民の花
ゆるゆるゝ　晴ゝ　深雪
紅梅のふゝ　吹ゝ　加義

仝

鯉賣ゝ　ゆるゝ
ゆるゆるゝ　了廉
山ゝ　笠ゝ　了廉

三物　　耕耘斎

まつりや紛らう春のあらし　郭子連

組せし木にかゝる風流　賢部子

月のうつる庄屋も　郭此　春をえ　大朴人

仝

ひらひら香るりふより　三月九十日

仝

庭ふまへてさ庄屋の春風　耕耘斎

弱やとして酒盛ふ星ハ　あくらかり　賢部子

仝

仝

彼ふささをとよまる　たる此　日影

まぶしらいの月まるるらい　大朴人

直義のまねとしたもむかしの　香文て　耕耘斎

山家図　　東北

よき事を梅てヤセ　くさのはる

律儀れ都よ随らあらふか

柳ハ人る月も中ふかりあさしの　あかりよ

仝　　蓮子

二前まつやおまつりもの　恵み

我家の銅ハかふたぬる　果嵩

鶴ハ今日此ゐぬまを　産そまて

仝　　吟之

泥亀もともありくきや　まぬつ我

松のえときもちらくよ　なる

雛て人るものつるよ　類も姫し

四

三拍

雪あるうけさかりよ　花あり　門の松
今朝ひらめきる梅よ　雪
ひるまの雪の仕業ハ　面白て　かゝ

同

おもひ出　きしの　きはもや　門うるを
敷入る　あらを　追ふる
朝ふを　やうも　おなじ　ふる

同

雪の中やうちれぬやちよ　いさうつ
只大ひらよりはちる松　竹
ふる人の庵同　敲寺　ちて

福葉

遠ふ雪や目の中ふれ　福ぬす
きうん紫ふる　池の春の　花ぶ
撰ふ洋面よ　梅ハ　ふる　て

仝

同

風ふ　酒屋　尾の　ふや
今朝の　人ハ　梅を　会
八百屋ハて　所ハ　ふた　旬ふ

宋上

来名　只計

同屋ふ　酒屋ふ　ふ　ハ　ふ
ふを　ふ　たぬ　ふて
梅の香ふ　ふ　ふ　ふ

二十羽　誠

呆且

礼ハ自ニ元ニ方ニ友　松本　玄甫

屠られも呑んや盆の肴魚　吉野氏

廣掾了ち地掃ふて　有馬氏

仝

餉ふ竹ー苞　松ー茂ル　一管　毛利

朝日ふ射ふ　近江氏

山ー々霞　一ー跨　玄甫

仝　藤原　素庵

鶯ヤ也　起ス予ラ者カ

今朝のんやとあるる　五百氏

はふのみ仕合せ　海の玉　氏

仝

たまるうちとうれつく　竹女氏

門ー玄ム屋ー並ミノ松　玄甫

黄ー鶯ウグイス声ー後ー上リ　一管

仝　陸ハ二百の海ヤし　氏

えうるを音物はいろ　氏

山ヤマト　展ヌル　鏡　一ー里ヌル　壽堅

小童得を大ろ　氏

仝

一以　貫タク　竈ー神ノ梢　壽堅

頑ー燕　汚ニ晴ー着キル　素庵

全

須（くもり）含レ芽（ヲ）弱カ餅

門ハとくとくの春の常家

ちゆもいとをくの京をあそこうて　全

全　歓伯

壽（ス）二五　剖（ワリヲ）一屠一蘇

子孫ゆ栄ふ歩くふの　全

近一在　雪　村一消へ　全

全　序教

ちらぬ家つくるうり

通一理（ヒヤ）　早（ハヤ）　羹（ケンヲ）一時　全

塩だらも　ものとけて　全

御祝儀

えんぎよくこらへ笑ふ笑ふ織女

若ひ夫婦雛子ハ奥の多ふ炉芳

ゆ一男まさ栄ふさ れ笑ふ季重

大竈の餅尽て嫁の笑ふ蟻武

ゆ遊ぶとこ ろ笑ふて笑ふ無才

えんぎよ大根をみて笑ふ　全

初夏ゆ一ひやら ゆ笑ふ勝之

大酒をかさして門の笑ふ品

世平也

ゆとをみて尽ぬ笑ふ　門の松　勝之

陸ら忘れて　ゆやさの長　乙東

三拍七

二月八日句帖あらため

梶牛

前事するも家の役

元和

元年目

悦ハ公ロヲ屠　藤ー酒

ミナト　玄夫

ちゑのよ宿をもとめ　音子

照陽ちゑもとめん　仝

仝

松ちゑ町の徐ー　主姫

ちゑ男ら朝起の勝　主ー

本のならめ白髪ふるをへて　仝

仝

ちゑ尾ー　あらふ雑者ふ

ミナト　岩水

信生まつら　ちゑ長九四　元和

ちゑの為祝の鬼やらさて　岩水

仝

ちゑ鶴の高　元和

ねよ河も　ちゑ人の集り　元和

もちゑ不ー　弾ー　ちゑ

仝

ちゑよ船ちゑ　ちゑ朝の

石灰の拾ちゑ　餅ちゑ　元和

九月末ちゑ　名前

三月

まつ神のあるかまらぬ里の家　ミナト　免翁

ふるひのもとる梅の花やさ春まつ

うるゝ日の雨はれぬ日ならさしく鳴て　無尤

仝　　この世

えらぶより今朝ぬひて来る　長谷川

かさらは此間ハ梅の吉例　例

地訓の世長を次へ行ちく　校時

仝　　成

百姓もとりかゝる　四月朔

えらぶの根をふむ道の言葉

朝物ゝ居たる雲の明を待く

仝　　成　　治良

春の雨　宅

ゝゝのあるいを強て根也　酒ケ

山梅咲そ仏の花を　仝

仝　　梅又

ふゆ〻ゝゝゝをつ種てまる　系第八

御寵のよ〻へ居ゝゝ春

二月九日　さらあもれ

第五　　一ノセ　雑

えらぶ麹とはふむ夜の夜

菊ノ井四月　むるの石

つら馬脇の月よ明て

三物

陸代の色酒のまそほ　さらの
たまのかやとそ　尺ぬち　銭泡
ちらむを土師の笠　ぬる雨　仝　友夕

仝

二条判や屋敷の紙　紙会　垣代の梅
上ちをと笠　垣代の梅
庭きしきひやうひやうと　住梅　竹尤

冬部

普賢や色の中納の撞頭
つやしよつらぬる間の八重梅　紫宿
江戸調よ雪の中に　紫宿　仝

仝

てごゝ梅や乳母ゝ　麿九　みやしよ
梅ゝ　伽羅の色の立切　京尤
木まくらに月も　乗羅の　仝　戸羽　梅樹

羅旦

沙弥や　ちらぬ
ひろひ処て風をやりて
梅ゝ　有りの　薫　月所　吟子

仝

名ゝ名ゝ名ゝ　江戸　旦ゝ
茶の大福　ゝゝゝ年玉
ゝんのりとる　ゝの西て

家々賀

[illegible] 庐教

元朝や上[illegible]もは 少年 [illegible]

[illegible] 寄家もいろ[illegible]ちの玉 日

同じ名は一[illegible]なる[illegible]風

[illegible]人や形[illegible]の長 宗鑑

三月や蓬のもの食い初 [illegible]

下[illegible]居て[illegible]ちも いとは焼餅 昌琴

[illegible]を抱て[illegible]よくるや門の松 [illegible]

[illegible]おやの[illegible]られて戻り書 門[illegible]

一[illegible]ホ[illegible]てちるや 四方の長 竹翁

[illegible]あ辰のひ[illegible] [illegible]

[illegible]

[illegible]ふ二[illegible]ふ [illegible]

三月や[illegible]よむいて[illegible]て[illegible]奉 春老

[illegible]絵[illegible]て[illegible]出[illegible]も[illegible]

[illegible]肥[illegible]馬場[illegible]ちいさ[illegible] 今朝生 哥友

麦茶の[illegible]道[illegible]をさす[illegible]と[illegible]生 忍古

[illegible]も鏡[illegible] [illegible]サント

[illegible]茶[illegible]より[illegible]紀[illegible]衣い 又扇

[illegible]よ交[illegible]や男 千露

[illegible]や弁よ 早の彩 [illegible]男

[illegible]の[illegible]の 柳玉

杓[illegible]さ[illegible]津[illegible]の 柳[illegible]

[illegible]の[illegible]小 [illegible]柳子

[illegible]ち誰も[illegible]や朝生 素事

元日やけふ霞帰る花むかしの春　女幸　和風

飛むすびや白いお咲て同じころ　女幸　宗甲

春風や上の町くらちらつく　宗北

元朝やさあのつらむ日の出　梅之

元日やひろらかし肌　衣夕

今日からやよき香て日の出梅の花なしむ　三木

今年このらや香もうつらしさむかしの花　八ツ

元日やいくたりかへても下戸は家に　久友

八その街あまりはぬくさ雪外　モ人　長夕

見ほれ茶巾さえきや行きの　八子

大黒ていつらも続ぶや後け先　同

気みも膳備るや　三ケ月　全

元朝や去に咲らか浮かれきさの佼　戸翔　梅樹

咲てつきれ童欲なりきこころな　同　梅宮

元日は夫婦中よく豚豆ののな　同　艶舟

去年よりもいとまなし力となりて

放ふて手拭縄あり行きあい　丁也　不久

手桶の星架るややしおとこ　同　う色

節や袖たまもかなし名は　不阿　風也

若のや、霞の遠き比いさ紀よよ　久カタ　如水

帯るも清舟渡蒲の朝日　僧　性旦

夏まで今朝あきら法賞人は　三升ト　居之

下くし肩て風の法さかりの　同　梅信

十二

同題

季子徳也珍客 巨龍
珠若礫球寸 仝
門杢家奥深 仝

同題

送李資宝舸 仝
すいと脱ぬ路交
又ゝめられ人ゝ取下して 仝

仝

ゝゝゝの格て働く吹走る路友
縦目甲頭巾 巨龍
雪兵薄天明白 仝

同題

有明の餅とあるは吹走る 呂曳
煙とゝのたゝ香ゝ 素英
小宵ある臭むゝとゝや 庵教
丈如長拝何ゝゝ 有妻
火補抱てゝのあゝゝ 世妻
ゝつゝいかてゝるむか走る起芳
つり竹てゝゝゝえまゝ 吹走る 白歌
日出ゝる庵ゝ 寸阪
鴨一羽百文の所 素廉
小坊主ゝゝ刹をゝ 吹草
猿ゝの馬て庚 吹走る 素南

よ矢入をいろ〳〵待やとる枕　呂雲

江籬の西一入さむあの山走水　東私

鮒つるやいろ是ゑるものの奇こ

はや〳〵陸はさらふを鳴の中　相可　風や

梅ゆく里ゆ〳〵春のくれ　蟻武

湯屋へも二日ゝつゞ山走水　桃歩

古筆もかれ〳〵ら枕きり　戸朝　桃樹

一中ゝの迎はやいつゝ　仝　吟子　の名

戸口ゝら冊の切朗　嚴考子　遂汀

ゝ〳〵ら梅屋若の今ゝやゝの日　玄花

鮒つるや月ゝ今ゝ二表花　日　花翁

振返ゝ切陸八ゝ　ゝ　ゝのれ　友雪

四月

四月はゝ〳〵ゝあり　雪友

ゝ〳〵ゝの市

提ゝ切ゝ写ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

鳥鳴八十縷　出　ゝ　ゝ　ゝ

あんまり　ゝ　麦ゝ日の風　土斯

追ゝ切ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝれゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

屋形の遠ゝ　十三夜　定牙

ゝ冊ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

阿曼　乙屯

[illegible]八幡名と朝の色
[illegible]　及朱
[illegible]長[illegible]よのうち　及止

いも　仝

さて八[illegible]伊の[illegible]
[illegible]　乙屯

こうても何もひろ[illegible]　及朱

未　社神　仝

[illegible]　古又きや
[illegible]　及止
[illegible]　乙屯

日本記

[illegible]　及朱

田耕子

[illegible]の朝[illegible]　及朱

鉞

鉞の柄子時[illegible]　凉子

簑

牛形をやるとの[illegible]　乙屯

笠

ところ居て雞[illegible]　凉子

牛

[illegible]牛の[illegible]　及朱

尼更人良

白ぬや今宵のあらしさ　男　仄止

留主人

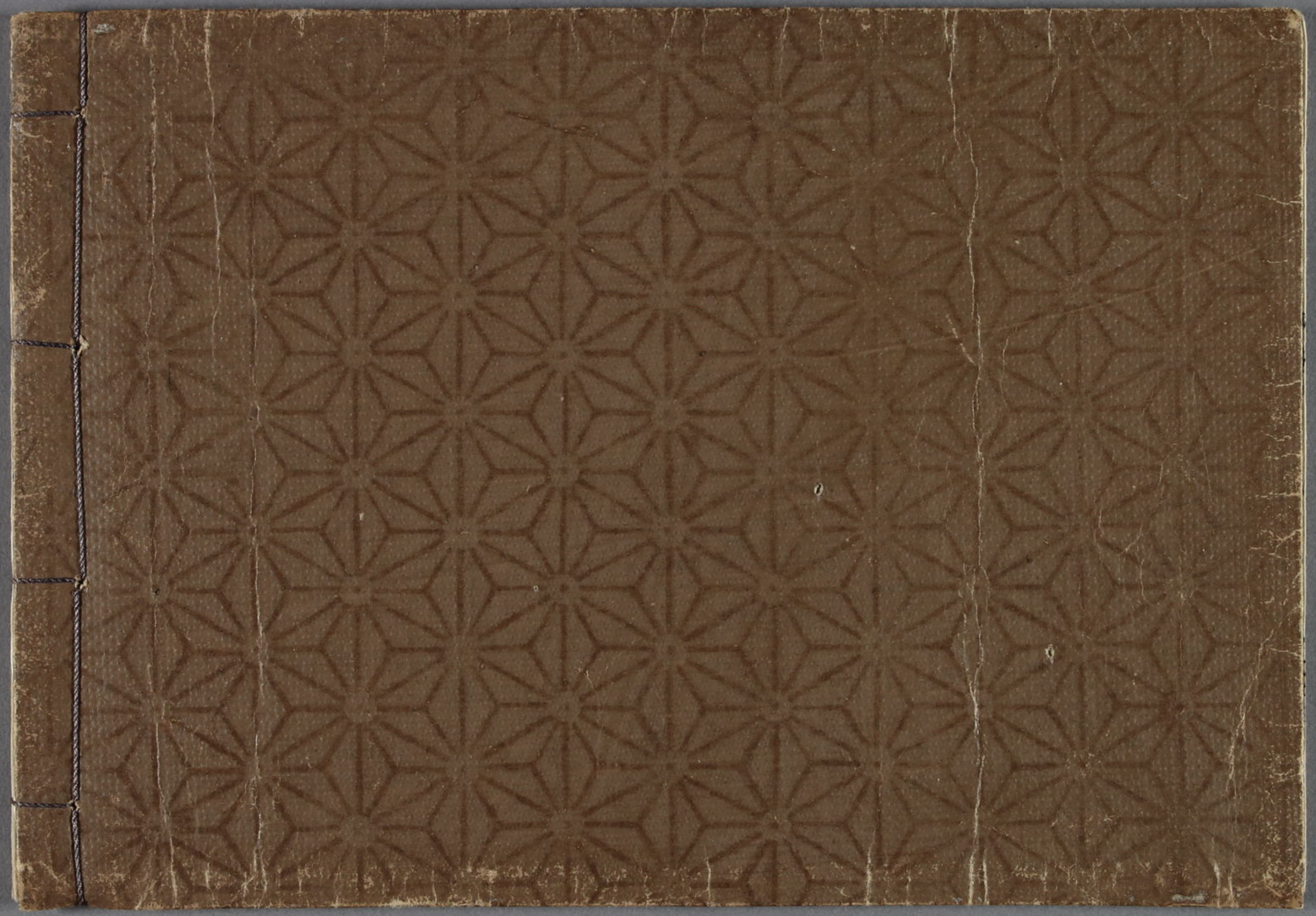
日なりしに留守をとするや　乙也

餅の月

臼

杵ならぬ世を望まれてて

子の月外を

昭和六年四月写之
原本藤園堂主所藏

宮本三郎先生勧学本